

鳥取県人口低密度地域（琴浦町、日南町）を対象とした、 新たな仕組みを用いた住民モビリティ支援システムの構築と実装

メンバー

実施者：中央大学 研究開発機構 秋山研究室

連携団体：鳥取県、日南町、琴浦町、八千代エンジニアリング（株） 等

活動目的

①交通システム、②情報・決済、③財源・制度、④地域体制の総合的な視点によるモビリティ支援システムを構築し、中山間地域や人口低密度地域における新たなモビリティ支援のあり方を提案する。

対象地域の概要(2地区を対象)

	日南町 福栄地区	琴浦町 安田・成美地区
人口	福栄地区 477人	安田・成美地区の一部1,342人
既存公共交通	<ul style="list-style-type: none"> 日南町中心部まで経路として約18km（バスで37分） 町営バス福栄線（上り4便 [うち1便デマンド]、下り6便 [うち1便デマンド]） 	<ul style="list-style-type: none"> 安田地区・尾張から赤碓駅までデマンドで約4km・18分 町営のデマンド船上山線（1日上り4便、下り5便）
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 町営バス・デマンドの持続性 運行の分かりにくさ（デマンド、路線型、スクールバスが絡み合う運行） 限られた運行ダイヤへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> 町営バス・デマンドの持続性 ドライバー不足（路線存続の危機、3年間の猶予） 限られた運行ダイヤへの対応



取り組み内容

Step1:調査

- 1.1住民の移動ニーズの質・量の明確化
- 1.2地域のモビリティを支える体制や仕組みづくりの強化
- 1.3地域の交通計画
- 1.4制度の検討
- 1.5供給体制の検討

Step2:計画

- 1.6鳥取版MaaS実現に向けた方策(試験導入)の検討
- 1.7情報・予約・決済システム等支援システムの構築検討

Step3:実施（試験的導入）

- 1.8モビリティ支援システムの試験的導入

Step4:評価・継続的展開

- 1.9モビリティ支援システムの評価・本格展開の実施

2019年度の活動実績

- ・移動ニーズの明確化として、住民ヒアリング（琴浦町203名、日南町117名）を行い、生活行動実態を把握。住民説明会より対応の方向性を共有
- ・日南町は既存の交通システムの改善によるデマンド交通対応、琴浦町は住民ドライバーにサービス確保策を柱として取り組むことを決定
- ・鳥取県版MaaSとしては、上記の交通システム変更にあわせ、情報提供、料金支払いの体制構築を含めた実証実験を2年目に行う

期待される成果

体制づくりや関係者の交通に対する意識の共有も含め、取り組み方針を1年目は設定した。2年目はその実装として、地域にあったモビリティ支援システムを以下4つの視点より構築。

アピールポイント

鳥取県版MaaSの取組として、①交通システム、②情報・決済、③財源・制度、④地域体制の4つの視点を総合的に構築することを目指し、地域の合意形成を含む実現手法を本地区の取組から発信。